内容要旨

21 世紀に入ってから、世界中のリソース構成は未曾有の分化や再編を発生した。文化資源に対するスクランブルは世界に於けるリソースの再編集の重要な内容になって、多くの文化製品はますますグローバル市場システムに融合された。文化は経済と政治に互いに浸透、融合、促進し合っていて、国際競争もますます政治、経済、文化などを含む総合的な国力の競争になっている。この大きい背景の上に、各国の政府はみんな文化産業の発展に十分に重視し、様々な政策を策定し、自国の文化建設や文化産業の発展を促進している。アメリカ、イギリス、フランス、日本、韓国などの先進国はその経済や文化の利点に頼み、優先的に文化産業政策発展の初めての急行船に乗った。従って、文化産業グローバル化の分業や貿易において有力の地位を占拠した。これらの先進国の文化産業の発展沿革を見通せば、成功を獲得できる根本的な原因は政府が文化産業の政策を推進し、各自の国文化産業の発展に役立つシリーズの振興体制を建立したことである。

文化産業とは商業や工業のやり方に従って文化サービスの提供や文化製品の交換、生産及び伝達を指す。この数年（2015 年から今まで）には、中国社会のモデル転換や政府職能の転化と共に、文化産業の一部分管理職能は政府から社会団体へ移転され、産業指導しつづき、社会文化生活において極めて積極に介入して、重要な役柄を演じながら、迅速な発展も順次に実現できた。しかし、あくまでも中国の文化産業は依然に初歩的な発展段階で、自分自身の運営や発展はただ今探索しており、より完全なモードやメカニズムにも形成していない。文化産業関連政策の研究はまだ立ち上がっている段階で、既に出来上がった具体的な政策総量がやや少なく、立法基礎のほうもより弱い状態で、それに、実行力の不足など問題点も深刻である。このほかに、中国文化産業の全体発展状況から見れば分かるが、規模、技術、支援などそれぞれの分野にも遅れている現状になっている。

今回の研究目的としては、先進国の文化産業発展モードを分析する基に、中国文化産業の構成、効能及び産業経済発展規律について強化すべきところや完全化を図るべく内容を認識し、中国文化産業政策や発展を主なポイントに対して、その構成、効能、競争力など分析を行い、指向性を含む完全化措置を提出し、中国文化産業政策のさらなる完全化や発展を促進する狙いである。課題の本文は中国の文化産業政策に全面的に、系統化の調査や研究を実施し、下記の問題点を円満に解決することを図る。

1. 中国文化産業政策構成の状況を了解し､その発展を対象とする主な政策は何がある。

2. 中国文化産業政策効能の評価基準を調査する。

3. 中国文化産業政策の効能、及び社会満足度、経済及び市場需要、存在する不足を分析する。

4. 先進国文化産業発展モードに関る啓発に基づき、中国文化産業政策の完全化を図る有効な対策を提出する。

5. 西洋など先進国諸国の文化発展モードを参考にし、どのように中国特徴のある文化産業発展モードを構築し国際競争力を持たせるのかを分析する。

文化産業政策研究は先端性、複雑性及び時代感の課題であり、西洋などの先進国の研究や発展に比べると、中国の多変な歴史背景や政治特徴において、中国文化産業政策の研究はまだ初期的な探索段階なので、論理や実証研究の支援が欠けている。そのために、この研究は中国文化企業の実践やその政策本体や政策関連問題点など綿密に注目を払い、先進国文化産業の関連論理と発展に結びつけ、中国国勢に相応しい文化産業政策の構成、効能を構築し、中国文化産業政策の完全化を図る発展方向を探し求める。この課題の研究成果は中国の産業部門や文化事業の管理者、政府企画の決定者、文化産業経営者及び第三産業におけるソーシャルワーカー達に今後業務展開についてある程度な指導役割があると狙い、さらにこれから実行に良好な基礎基準を提供できるように図っている。

論理的な研究と言うと、世界国々は文化産業の概念が違って、今までも統一な定義が無い。その原因を調べると、一番関係があるのは政府または研究者の研究角度の違いによる差異が存在していることが分かった。各国はそれぞれ文化背景、政策制定、経済発展などの実際情況があるため、差異が出てくると共に、国々が文化産業の性質、機能など認識上の差異も存在している。その現状が続けている一方、文化産業が飛躍的に速く発展した国もある。従って、この研究において、先ずは欧米などの先進国の国情、人文などの特徴に基づいて、文化産業中身に関する定義を分析した。これを基礎にして、前述した国文化産業発展の成功的なモードがもたらした啓示に結び付け、中国文化産業の現状に対して深く調査研究を行い、中国特徴に満たす文化産業の定義を提出した。そして、この定義に基づき、中国文化産業政策の構成、機能及び競争力分野について詳細な研究を実施する。その学術価値は主に四つの分野に表せる。1、西洋などの先進国文化産業発展に関る成功的なモードを分析し、それに発展途上国文化産業の発展や台頭の啓示を整理した。2、中国を特別事例として、多変な歴史背景や政治特徴における文化産業発展体系に対して分析を行いながら、論理上に既存法律や政策に存在している欠点に対して検討を行い、指向性のある対策を提出した。3、先進国の文化産業が発展中での政策策定の重要な役割を比較し、中国が文化産業関連政策を改善する中に注目すべき重点項目を提出した。4、文化産業の競争力は中国にとって比較的な新しい研究分野であり、本課題は西洋の比較的に成熟した産業競争論理と「ダイヤモンドモデル」を引用し、中国の

実際的な国情、発展特徴を結合し、その発展に影響する主な要素を分析する。

文化産業には特殊性があるため、その政策に関する研究は多くの実体産業政策と異なり、文化産業は民衆のイデオロギー属性と精神生活の品質に関連する産業である。中国の文化産業が中国の特色ある社会主義の環境で、その政策の構造、効能及び競争力の 3 つのレベルを探求するために、本文は主に独自に考案した定量研究法をデータ分析の基礎とし、定性研究法と文献研究法で補足して進めていた。実証研究では、「スノーボール」サンプリングモデルで、中国の文化企業を対象に、文化産業政策システムの協調性と系統性、文化産業政策体系の柔軟性と市場性、価値指向と内容計画の面から目的策定するアンケート調査を行った。または、得られた「一次」データも、統計ソフトによるアフター処理を行い、その信憑性を検証し、より客観的な結論を導き出す。そして、定性研究法のインタビューを通じて、中国のある市の文化観光委員会政策の役人と異なるタイプの文化企業幹部へ調査し、インタビューを通じて、主観的に仕事中で認識した文化産業政策の効果と障壁を了解し、その職業経歴から啓発を得られた。これは現在の中国文化産業策略の発展において、実践と実行することを研究する最適な方法であり、文化産業政策の発展は単なる「計画」のレベルにとどまることができず、「実行」しているかどうか、及びどのように「実行」するかは鍵である。この観点から、対象性のある主観的対話も客観的結論に導くことができる。本文では、文献研究法は「二次」データに対する研究と言え、非常に重要だと思う。これは中国の文化産業の発展が遅く、多くの政策的な研究や論理的な研究は西洋などの先進国の発展モデルに遡るしかないためである。中国と海外の文化産業発展の基礎概念と数少ない論理研究に基づいて、西洋などの先進国の文化産業発展中の関連政策による成功モデルを比較すれば、本文中の文化産業の政策研究に対して深い分析と研究を行い、そしてそれを論文全体の分析に貫徹し、「論点あれば論拠がある」ことに満たすことができる。最後に、3 種類の研究調査の結果を総合し、系統的な分析を行い、中国文化産業政策の発展現状の研究結論をまとめ、それによってこれらの「問題」と「不足」に対して指向性のある政策完備提案と未来戦略発展計画を提出した。

調査研究に通じて、中国文化産業体系が既に構成されたみたいが、ある具体的な業界エリアにおいては政策が足りなく、立法のほうも健全ではない現象も非常に普遍である。それに、国と地方はそれぞれ勝手に振る舞い、矛盾性も深刻であるし、文化政策の体系構築や政策の立法、監督管理などそれぞれの関連点に、文化産業政策の効能が低く、脆弱な部分もたくさん存在している。特に立法や監督管理の面には、立法は秩序が無く、全面的に揃っていない弱点がある。それに、文化業界にかかる政府は監督管理が厳しく、市場活力不足の現象も多い。なお、アンケート調査の結果から見れば分かるが、文化産業政策の価値基準がやや多いが、内容の企画や協調性や系統性については非常に弱い。

だから、中国文化産業の発展は新しい発展情勢に直面し、内外環境はすべて激しい変化が発生している一方で、文化産業自身は発展の累積を経て新しい段階的な特徴を呈し、それによって産業政策に対して異なる需要を生み出された。このような状況は文化産業政策体系をさらに改善する必要がある。まず、より「機能性」のある政策体系を構築し、政府と市場との関係を区分し、「市場決定的な役割」を十分に発揮する文化事業管理モデルと産業運営メカニズムを十分に発揮する必要がある。そして、「革新性」の政策体系を構築することによって、自主革新を中国文化産業発展の最も重要な動力源にし、そしてハイテク技術を用いて文化生産方式を革新し、新興文化産業と文化業態を育成し、伝送が迅速で、広範な文化伝播体系の構築を加速し、中国文化産業の活力と競争力を高める。さらに、中国文化産業を迅速かつ健全に発展させるためには、政府主導、企業主体、市場運営、社会参加の「開放型」政策体系を構築するとともに、「導入」と「海外進出」の双方向発展モデルの形成を推進する必要がある。最後に、文化の二重機能、二重属性と二重構造の面から研究し、文化企業主体と社会「ウィンウィン型」政策体系を構築する。

中国の文化産業の発展はまだ「成熟期」に入っていないため、中国文化産業政策体系の完備方向に対して、本課題は「立法強化」、「コンテンツ活力の刺激」、「国家支援」、「体制改革」、「文化産業部類政策の完備」、「市場メカニズム改善」の６つの政策関連研究議論を提案して、中国という独特な国情を持ち、文化資源が豊富な国に対して、文化産業の加速発展、健康発展に有効な助力できると信じる。文化産業政策体系の改革を完備し、実力を豊富させ、比較的に強い影響力を持つ大型文化企業と企業グループを育成と発展させるこそ、文化産業の発展をリードすることができるからであり、これはすべての文化強い国が文化産業全体の実力を強化する必ず通らなければならない道である。

同時に、文化産業競争力の戦略向上研究について本課題には一枚紙の両面として論説した。というのは文化産業競争力は中国にとって比較的な新しい研究分野であり、文化産業競争力は他の国の文化産業に対象するものであるため、比較の概念を使うようになった。この部分の研究はアメリカの有名な管理学者ポッターが提出した産業競争力理論と「ダイヤモンドモデル」を引用し、そして中国文化産業発展の特徴を結合し、その競争力に影響する５つの要素を総括と分析し、「政府行為」、「生産要素」、「需要要素」、「関連と支持産業」と「企業戦略」を含むことを指摘した。それによって、中国の文化産業発展において、政府の過度な関与、文化高級資源の開発不足、関連する技術人材が少なく、市場需給の矛盾が大きく、文化企業間の連携が少なく、産業チェーンが短い或いは「チェーンの断裂」の情況が著しく、文化企業の規模が小さいという研究結論が得られた。日本の文化産業発展の成功モデルと海外展開の成功経験に基づいて、中国文化産業競争力向上戦略は以下のいくつか着手すべきだと強調した。1. 社会主義の核心価値観を立業の基礎とし、文化主権を維持する；2. 中国に属するブランドを樹立し、派生商

品の開発を強化し、その文化資源の豊富な優位性を発揮するが、政府と文化企業がどのように宣伝と運営するかは肝心なことである ;3. 中国の特色ある文化を世界に溶け込ませ、世界に受け入れさせることは、文化製品が普及する前に、市場の需要調査と受け入れ可能性を行う必要があり、「いかなる」外に出た文化は最初はすべてサブ文化に属するからである ;4. 文化仲介組織の役割を重視し、基金会、文化交流協会などの社会的な関連組織の役割を発揮する ;5. 文化産業の人材育成を重視することは、繰り返し言及された議題であり、人材の発展と備えは世界の文化産業競争力戦略の向上と考えられるからである ; 6. 中国文化産業は国が提唱する「一帯一路」の枠組みの下で、製造業の大きい国という利点と市場ルートの利点に依存して、文化創意の融合浸透力と文化サービスの付加価値効果を強化させ、多産業協同発展の能力を高めて、新しい産業クラスターを形成し、「海外進出」実行可能な組織モデルを構築することなど推進すれば振興になる。

以上の通り、本課題の研究では、西洋などの先進国の成功モデルの経験と啓発を吸収すべき、現在の中国文化産業の発展現状と研究を深く調査と分析によって、中国の特色を持つ文化産業政策体系を再構築し、構造を更に合理的で、更に迅速な発展に適合させる必要だを指摘した。もし、効率よく向上に力を入れて文化産業構造の配置を更に最適化させ、文化供給の質を高め、文化消費を活発に促進し、文化産業の規模を拡大し、全体的な発展による総合的な利益を高めば、産業の一層充実発展ができる。そのほか、中国国内と国際の両方の市場資源を十分に利用して、新しい情勢の下で文化産業の国際協力と競争に参与できる新しい力を育成させ、世界国々の文化資源要素を誘致したり、高品質の導入と高レベルの海外進出をうまくマッチングしたり、国の「ソフトパワー」として推進すれば、これにより中国文化産業の競争力は必ず向上できるはずである。